令和４年度　北区地域包括ケアシステム推進会議 議事録

１、日時　　令和４年 12 月１日（木）14 時～16 時

２、場所　　植木文化センター２階　多目的ホール

３、出席委員（敬称略）　竹熊千晶、平田貴文、木村浩美、野尻晋一、福田奈美枝、宮田みづほ、金原勝、松川美枝、阪本希望子、原満喜子、是永雅之、津地尚文、秋吉展明

４、会長・副会長選出委員の互選により会長に竹熊委員、会長の指名により副会長に平田委員と津地委員を選任。

５、報告

（１）北区地域包括ケアシステム推進方針の見直しについて・・・事務局　（資料 2）

熊本市地域包括ケアシステム構築の推進計画として位置づけている第８期「熊本市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（くまもとはつらつプラン）」の３年毎の見直しに合わせて、令和４年度から令和６年度までの北区地域包括ケアシステム推進方針について説明。これについて質問・意見はなく承認していただいた。

（２）令和３年度第２回書面開催における意見およびその後の取り組みについて・・事務局（資料３）

認知症高齢者等見守りＳＯＳネットワーク事業について、具体的組みについて聞きたいとのことで事務局から以下を説明した。

（説明内容）今年度 10 数組の事業登録があり、どこ知る伝言板につながる見守りシールも配布している。しかし、どこ知るシールは欠点もあることから、申請時にリスクをしっかり説明し、納得いただいた上で配布している。積極的に地域に周知していきたい。

６、議事

（１）活動報告１

「コロナ禍でのつながりを探して」～民生委員の方とささえりあ武蔵塚の取り組み～

・・・熊本市北５地域包括センター　ささえりあ武蔵塚（資料５）

（２）活動報告Ⅱ

「自宅で出来るフレイル予防体操＆ラジオ体操」～医療・介護の専門職連携の取り組み～

・・・熊本市北５地域包括センター　ささえりあ武蔵塚（資料６）

（３）意見交換

◎日本人は人に迷惑を掛けてはいけない風習がずっと染みついている。特に高齢者に多い。若いうちから自分が困ったときに、上手く言える、伝えられるような仕組みを作っていかなければならない。

◎地域包括ケアシステムの概念は、高齢者や認知症の方だけではなく、障がい者も含んだものだと思う。障がい者相談支援センターの知名度は低く、まずは知っていただくというところから始めていこうと思う。

◎現在の福祉担当者（民生委員・包括担当者も含め）の人員不足が否めない状況である。民生委員が福祉ケアを支え、民生委員退任者（福祉員仮称）に再度立ち上がってもらい、民生委員を側面から支えていってほしい。

◎食をとおした健康づくりを世代別（保育園での親子料理・働き盛りの方々）でテーマを決めて実施。現在はコロナ禍で実習ができず、メンバーが料理を作り試食会を開催している。ある校区で試食会を開催した際には、みんなに会うのが楽しみと、杖を使用しながら参加された方もおられ、試食をしながら会話を楽しんだ。今後も食を中心に皆さんに情報発信していきたい。
◎若い世代は「デジタル時々リアル」という状況で、アバターなどデジタル空間に閉じこもり、現実の世界になかなか戻ってこない人たちが増えている。世代間の繋がりはコロナを超えてもっと難しい段階に入っていくのではないか。

◎包括が介護予防に活動されていることはとても心強くありがたいが、フレイル予防はなかなか地域に浸透していないように感じる。退院される際に帰る場所がない、介護者がいない、住環境に問題があるのか、医療者として地域にどうお返ししてよいのかわからない。負のスパイラルにならないように一緒に何か出来ないかと思う。

◎コロナ禍で高齢者の見守りをする中、高齢者の気力・体力が弱られたように感じる。フレイル予防体操、ラジオ体操のＣＤ講習会が開催されるということで、民生委員全員で参加しやってみて本当に良かった。この機会に地域に広めていきたい。

◎認知症は家族や身近な人が早めに症状に気づき、関係機関につなげてほしい。当時、自分自身も知っていれば、対応の仕方も違っていたと思うし、話し合いや集いの場に参加し情報共有ができていたと思う。パンフレット等でつなげる機関は提示されている。コールセンターなど専門的な機関を頼って欲しい。

◎自分の開業している地域は交通手段がなく交通難民が多い。このような方々に対して、都市計画の１つとして手段を考えていただければ、住みやすいまちになるのではないか。

◎民生委員の単独支援はかなり無理がきている。関連する機関や団体が一同に介して情報共有、連携、協働することで、よりよいサービスにつなげていくことがこれから先の在り方である。

（４） 熊本市地域包括ケアシステム推進会議委員の選出について ：竹熊会長を委員として選出

７、閉会